

小町の里周辺の社寺・史跡の案内

(現地案内版の記載を転写)

小野小町の墓（石造五輪塔）

小野小町は、絶世の美女とうたわれた平安時代の歌人で、言い伝えによると、京都から奥州（東北地方）に旅する途中、清滝観音から北向観音（八郷町小野越）へ向かいお参した後病に倒れ、この地の村長小野源兵衛宅で親切な介抱をうけたが、元禄7年（883年）7月7日69歳で亡くなったといわれています。

小野家では、小町がこの世を去って以来供養を続け、昔は近郷からの参詣者はかなりあったそうです。

小町の墓には、婦人病に悩む人達や、参拝すれば美人になれるという話から年頃の娘がよく訪れたらしく、墓前には数多くの「ほうろく」（豆などをいる時に使う素焼きのフライパン風のもの）が供えられています。これは、祈願をする時に一個借り、願いがかなえられた時に二個にして返納したそうです。

また、墓の左側には、小田城主の小田氏治（天庵）が、小町の旧蹟が後世まで守り継がれることを願って、「心花石」と自署して彫らせたという石が残されています。

さらに墓前には、東京の高野常蔵氏が「夢の報せを得て、この小町の墓に詣でて祈願をしたところ、医者が匙を投げた愛妻の奇病が全快した」お礼にと、明治41年7月に寄進した自然石造りの御手洗石があります。

東城寺

東城寺は社伝によると延暦15年（797）に、最澄の弟子と伝えられる最仙によって開かれたとされている。当初この地には薬師堂が建っており、本堂は背後にある山中にあったという。筑波山周辺に築かれた古代の多くが廃絶した中で、今なお山寺の風情を残す貴重な寺院である。

県指定文化財 彫刻 木造広智上人坐像

県指定文化財 工芸品 六地藏石幢

県指定文化財 史跡 東城寺経塚群

県指定文化財 考古資料 東城寺結界石

結界石

結界石は一定の地域を区切る境界石である。仏教で受戒や布薩等の儀式を行うために定めた大界・戒場・小界等の限られた地域を撰僧界というが、東城寺の結界石はこれを示す標石に大界外相と彫ったものである。

鎌倉時代後期に常陸に布教した西大寺系律宗の高僧忍性の手によるものと考えられる。同様な結界石は般若寺（土浦市宍塚）、三村山極楽寺跡（つくば市小田）に残る。